

新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論 頭頸部腫瘍に対する個別化治療

講義日：2023年12月9日（土）

講師：今村 善宣（神戸大学 腫瘍・血液内科 助教）

要旨

頭頸部癌は Stage III/IV の進行癌が約 60%を占め、多くは予後不良である。一方で、発声・嚥下・咀嚼などの重要な機能が集中しており、治療に際しては特別な配慮を要する。このため、以下のような行動目標に沿った講義資料を作成した。

1 行動目標

頭頸部癌の治療を行う上で、以下のような点に注意する必要がある。

- 1 原発部位別に治療方針が異なる。
- 2 機能や美容面への考慮が必要で、その希望を加味した治療選択を行う。
- 3 外科医・放射線治療医・腫瘍内科医だけでなく、歯科医・病理医・看護師・薬剤師・言語聴覚士らと協力してチーム医療を行う必要がある。
- 4 化学療法や放射線治療に伴う有害事象の管理は治療効果を保つ意味でも重要である。

2 講義内容

- 1 頭頸部癌の基本情報（疫学、組織型、亜部位分類、病期分類、予後を含む）
- 2 頭頸部扁平上皮癌の治療方針（切除可能例、切除不能例、再発転移例を含む）
- 3 上咽頭癌の治療方針（局所進行例、再発転移例を含む）

4 再発転移唾液腺癌の治療方針

5 再発転移甲状腺癌の治療方針